IBM i 2026

IBM i コンテンツ (2026年11月版)

もっと便利に！VS Code + Code for i 2026年版
VS Codeで実現するIBM i開発の効率化
～ 新機能から知っておきたい便利機能まで ～

日本アイ・ビー・エム株式会社
テクノロジー事業本部
Power & Cloud テクニカル・セールス

© IBM 2026

もっと便利に！VS Codeで実現するIBM i開発の効率化 ～新機能から知っておきたい便利機能まで～

近年、IBM iのモダナイゼーションでは、RPGのフリーフォーム化やAI活用などが注目されています。
しかし、普段使っている開発ツールを見直すことも、身近なモダナイゼーションの一つではないでしょうか。
そこで注目したいのが、Visual Studio Code（VS Code）とIBM i Development Packです。
若手技術者にもなじみのあるVS Codeを活用することで、RPGやCLの編集、SQLの実行など、IBM iの開発作業をより直感的に進められます。さらに、関連する拡張機能は継続的に進化しており、日々の開発を支える便利な機能が次々と登場しています。これらの機能はIBM Bob Premium Package for i でも使われています。
本コラムでは、VS CodeとIBM i Development Packの近年の機能強化から、意外と知られていない便利な機能まで、日々のIBM i開発に役立つ活用術をご紹介します。
いつもの開発作業を、もっと自由に、もっと快適に。VS Codeの新たな可能性を一緒に探ってみましょう！

目次

1. VS Code + IBM i Development Packでできること
2. 進化し続けるVS Code：注目の新機能
3. 明日から使える！知っておきたい便利機能
4. おわりに

© IBM 2026

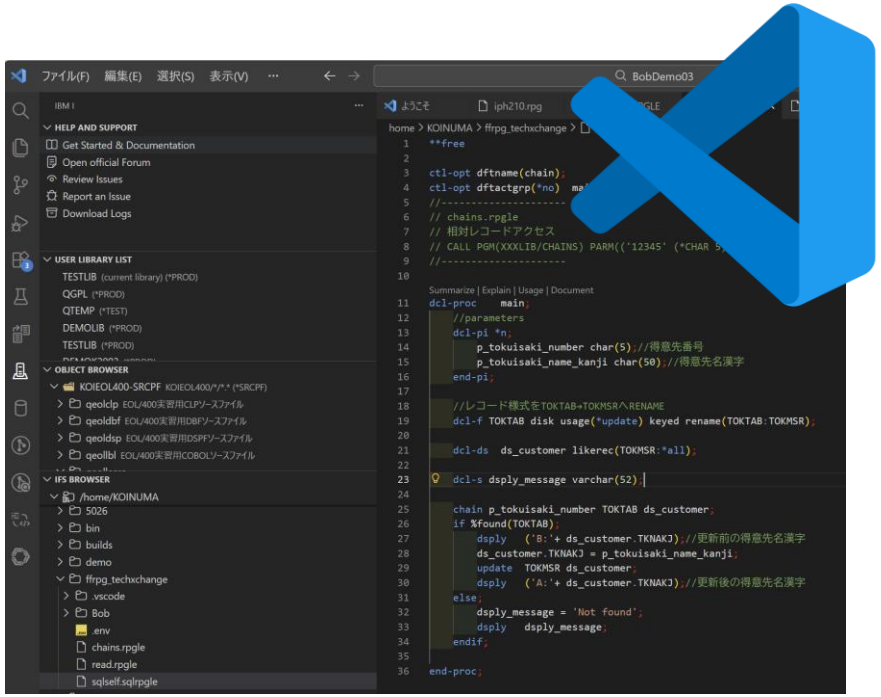
1. VS Code + IBM i Development Packで できること

© IBM 2026

Visual Studio Code（VS Code）とは

Microsoftが提供する、無償で利用可能なコードエディターです。
豊富な編集機能と拡張機能により、さまざまな開発環境で利用できます。

- 軽量で使いやすいコードエディター
- Windows / macOS / Linuxに対応
- 検索・置換、複数カーソル、コード補完などの編集機能
- テーマやフォント、ショートカットを柔軟にカスタマイズ
- Gitによるソース管理に対応
- GitHub CopilotなどのAI機能との連携
- Marketplaceから豊富な拡張機能を追加可能
  - 言語サポート / デバッグ / Git / AI など
  - **IBM i Development PackでIBM i 開発にも対応**



© IBM 2026

IBM i開発を支援する拡張機能パック：IBM i Development Pack

IBM i開発に役立つ拡張機能をまとめて導入できる無償の拡張機能パック

- IBM iへの接続、RPG・CL・COBOLの編集、SQL実行など、幅広い開発作業を支援
- 必要な拡張機能を一括導入し、VS CodeでのIBM i開発環境を手軽に準備
- ソース編集からコンパイル、デバッグ、SQL実行まで、VS Code上で一連の開発作業を実施可能
- 15個の拡張機能を収録（2026年11月時点）

※IBM i Development Extension Packは、コミュニティーが提供する無償のVS Code拡張機能パックです。IBMによる企業向けサポートは、IBM i Extensions for VS Code Enterprise Supportの契約に基づき指定の拡張機能が対象です。

2026/11 時点のインストール情報



複数のIBM i向け拡張機能をまとめて導入



IBM i への接続・開発を担う中核拡張機能
(IBM i Development Packに含まれています)

© IBM 2026

IBM i Development Pack に含まれる拡張機能

中核（接続・開発）　言語支援　データベース・画面　プロジェクト・運用　その他

Code for IBM i
中核
Code4i
IBM i への接続、ソース編集、コンパイル、
CLコマンド実行など、開発の中核となる拡張機能。

IBMi Languages
言語支援
barrettotte
RPG・CL・DDS・MI などの
シンタックスハイライト（色分け）を提供。

RPGLE
言語支援
Code4i
RPGLE の編集支援（補完、アウトライン、
コーディング規約チェックなど）を提供。

COBOL
言語支援
BitLang
COBOL のシンタックスハイライト、補完、
スニペットなどの編集支援。

CL
言語支援
IBM
CL（CLLE）の構文チェック、補完、
スニペットなどの編集支援。

Bob Cozzi's CL Prompter and Formatter for IBM i
言語支援
Cozzi Research
F4プロンプト、CLのフォーマット、
CLコマンド入力ワークスペースを提供。

Bob Cozzi's IBM i RPGLE / RPG IV to RPG Free Format
言語支援
Cozzi Research
RPG IV の固定形式からフリーフォーマットへの
変換を支援。

Db2 for IBM i
データベース
Code4i
SQLの実行、スキーマ参照、テーブルの閲覧、
データ確認などをVS Codeから実行。

IBM i Renderer
データベース
Code4i
DSPF・PRTFのDDSソースから、レコード様式をプレビュー。

IBM i Project Explorer
プロジェクト・運用
IBM
ローカルプロジェクトの管理、ビルド設定やジョブログの確認を支援。

IBM i Testing
プロジェクト・運用
IBM
RPGUnitを使用したテストの作成・実行を支援。

IBM i FileSystem
プロジェクト・運用
Code4i
IBM iのQSYSオブジェクト情報の参照・操作を支援。

IBM i Debug
中核
IBM
RPG・COBOLの対話式デバッグをVS Code上で実現。

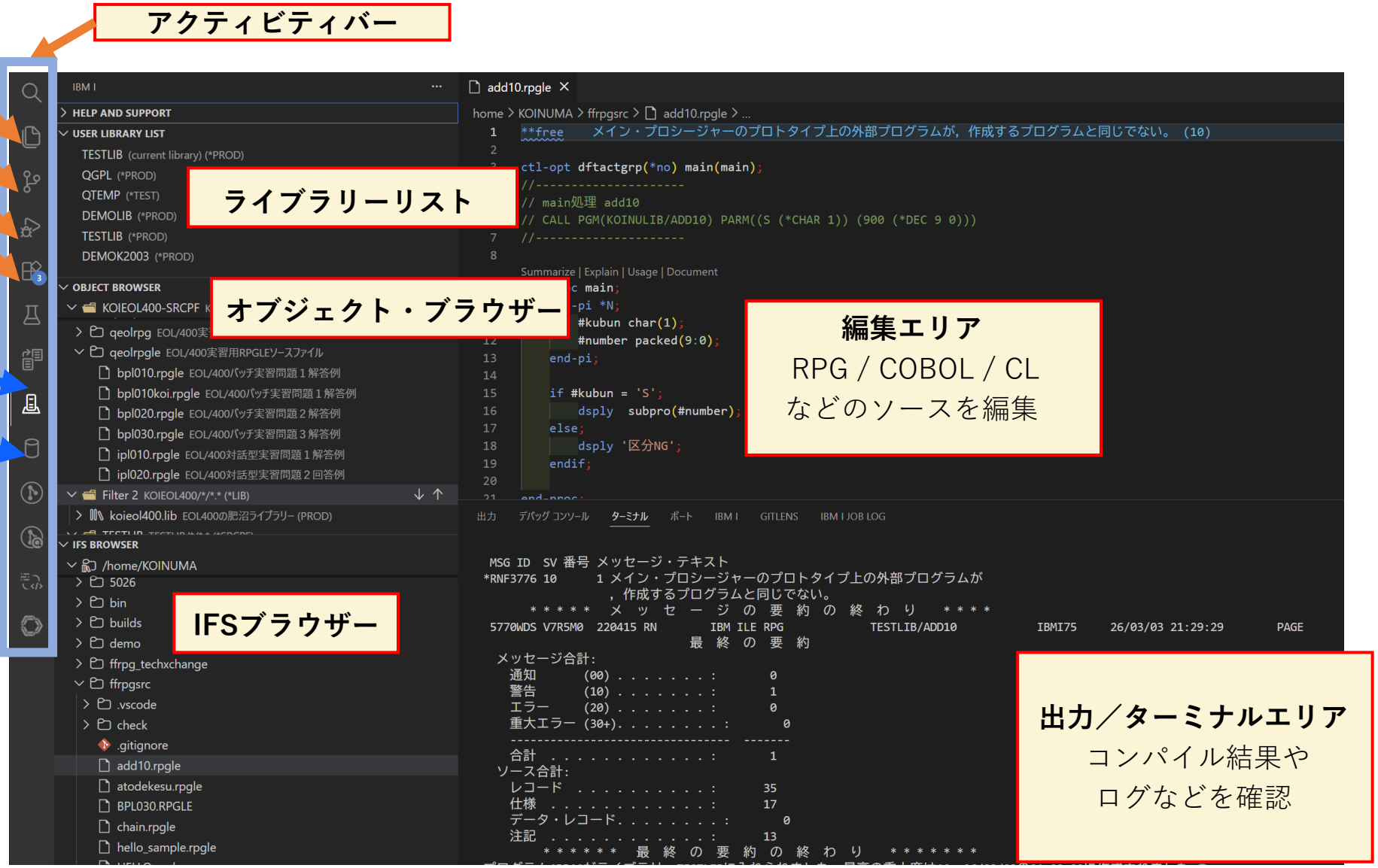
Code for IBM i Walkthroughs
その他
Code4i
初めてのユーザー向けに、接続設定や開発手順を
ステップごとに学べるガイドを提供。

Error Lens
その他
Alexander
エラーや警告をエディター上にインラインで
表示し、問題の早期発見を支援。

© IBM 2026

※ 2026年11月時点のIBM i Development Pack（15個）に含まれる拡張機能です。

VS CodeによるIBM i開発の基本画面



© IBM 2026

VS CodeによるIBM i開発：主な機能と役割

機能・画面	主な役割・できること
エクスプローラー	ローカルのファイルやフォルダーを表示・管理
ソース管理（Git）	ソースコードの変更履歴管理、差分確認、コミット
実行とデバッグ	ブレークポイントの設定、変数の確認など
拡張機能	必要な拡張機能の検索・インストール・管理
Code for IBM i	IBM iへの接続、ソース編集、コンパイル、CLコマンド実行
Db2 for IBM i	SQLの実行、テーブルの参照、データ確認
ライブラリーリスト	IBM iのライブラリーリストを表示・確認
オブジェクト・ブラウザー	ライブラリー内のオブジェクトやソースメンバーを参照・編集
IFSブラウザー	IFS内のファイルやディレクトリーを参照・編集
編集エリア	RPG、COBOL、CLなどのソースコードを編集
出力／ターミナルエリア	コンパイル結果、メッセージ、コマンド実行結果などを確認

© IBM 2026

2.進化し続けるVS Code：注目の新機能

© IBM 2026

CL 拡張機能：CLホバー表示

CLコマンドの説明をその場で確認

- CLコマンドにマウスカーソルを合わせると、コマンドの説明を表示
- パラメーターにカーソルを合わせると、説明や指定可能な値を確認
- 詳細ドキュメントをVS Code内で開くことも可能
- IBM iのCLコマンドを調べながら、効率よくプログラムを開発できます。



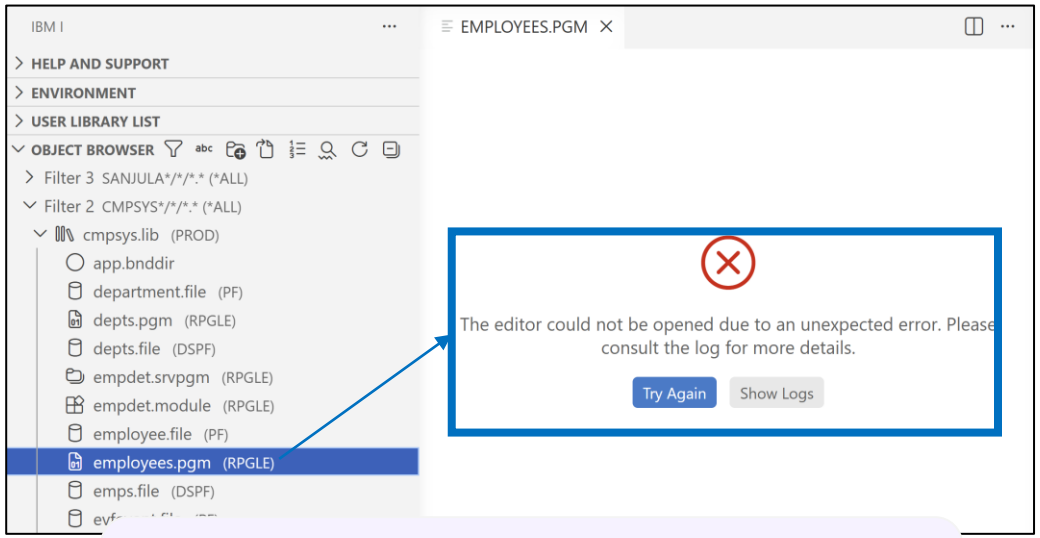


© IBM 2026

IBM i FileSystem 拡張機能：プログラムオブジェクトの参照

プログラムの構成情報をGUIで確認

- Object BrowserからIBM iのプログラムを開き、オブジェクトの詳細情報をVS Code上で確認可能
- 開発画面を離れずに、オブジェクト情報を確認できる
- 所有者、作成日、サイズ、ロック、権限、利用統計などを表示



Before ☹
オブジェクトを開けず、エラー表示



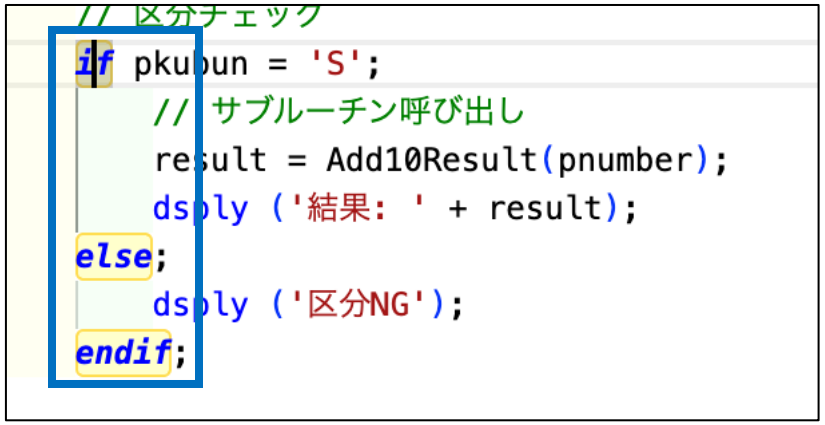
After 👍
詳細情報をVS Code上で表示

© IBM 2026

RPGLE 拡張機能：RPGコードブロックの強調表示

複雑なRPGソースも読みやすく

- IF/ENDIF、DO/ENDDO、DCL-PROC/END-PROCなど、コードブロックの開始位置と終了位置を強調表示
- 複雑な条件分岐やループ処理の範囲を把握しやすくなり、既存RPGプログラムの読解・保守を効率化できます。



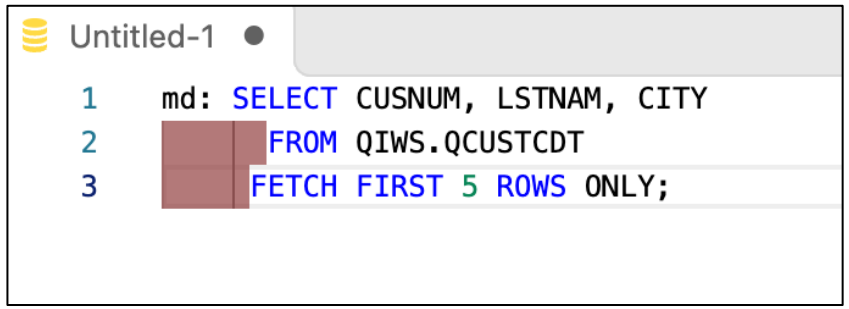
IFとENDIFの対応関係

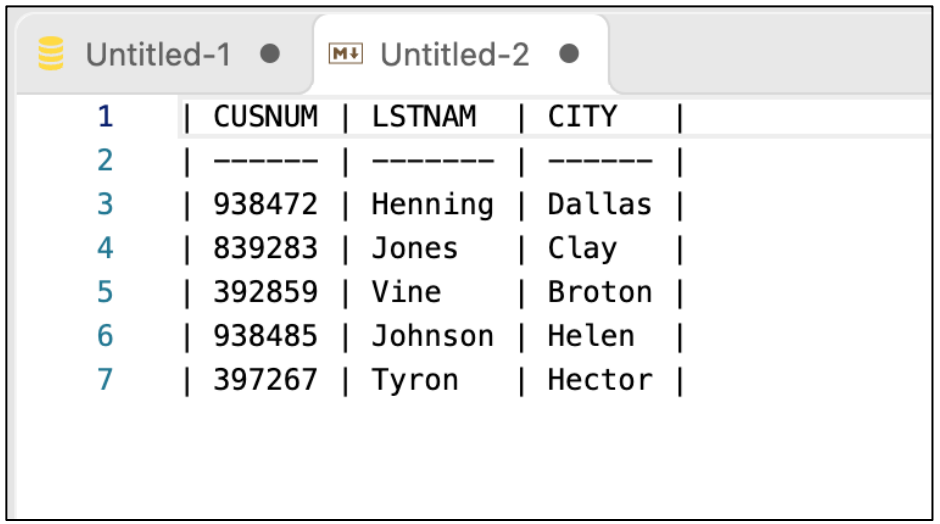
© IBM 2026

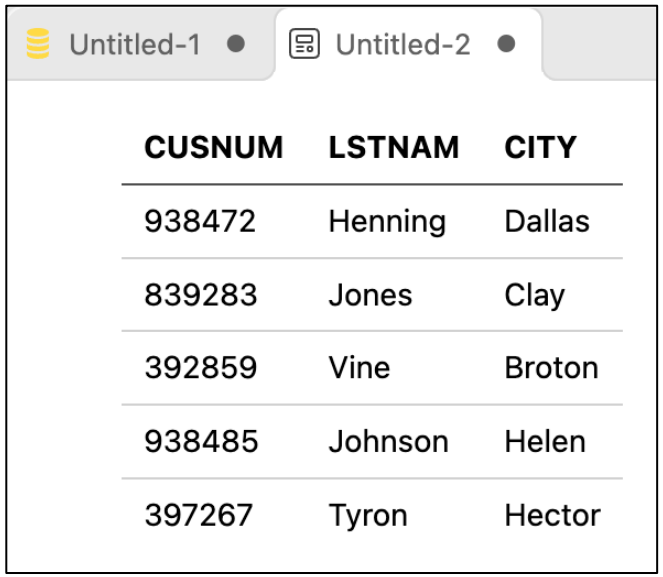
Db2 for IBM i 拡張機能：SQL結果のMarkdown出力

SQLの実行結果をドキュメントに活用

- SQLの実行結果を、Markdown形式のテーブルとして生成する機能です。
- SQL文の先頭にmd:を付けるだけで、検索結果を技術資料や開発ドキュメントなどに活用できます。







SQL文の先頭にmd:を付けて、SQLを実行 → SQLの実行結果がMarkdown形式の表として自動生成 → プレビュー（Ctrl + Shift + V）

© IBM 2026

3.明日から使える！知っておきたい便利機能

© IBM 2026

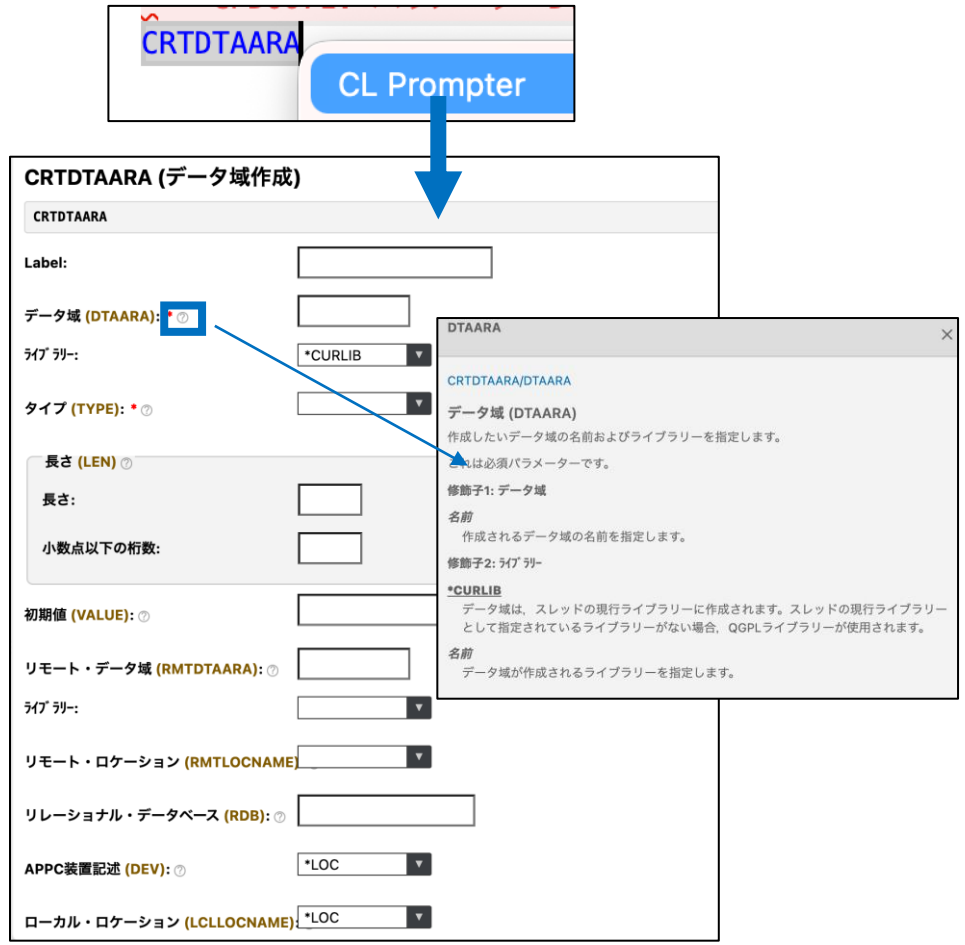
CLコマンドのプロンプト機能

IBM iでおなじみの「F4＝プロンプト」に近い操作をVS Code上で利用できる拡張機能です。
IBM標準コマンドだけでなく、ユーザー定義のCLコマンドにも対応します。

- **主な機能**
  - F4プロンプト表示：CLコマンドのパラメーターを対話形式で入力
  - パラメーターのヘルプ表示：各パラメーターの説明や指定方法を確認
  - CLコードの整形：コマンドを自動整形し、読みやすく表示
  - CLコマンド実行：Command Entryパネルから非対話型CLコマンドを実行

- **使い方**
  1. CLソース上で対象コマンドにカーソルを置き、F4キーまたは右クリックからCL Prompterを選択します。
  2. パラメーターを入力し、Enterでソースに反映します。

  ※「？」アイコンをクリックすると、各パラメーターの説明や指定方法を確認できるヘルプ画面が表示



© IBM 2026

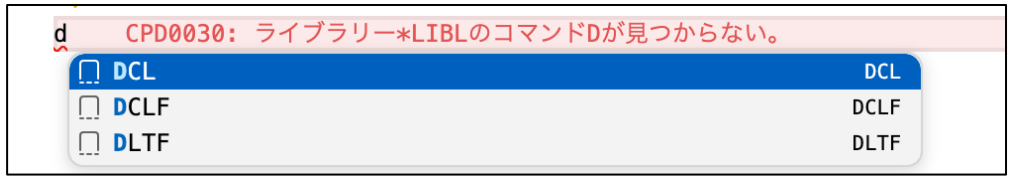
CLコマンドの入力補助

CLコマンドのひな形を呼び出し、パラメーターを効率よく入力できる機能です。

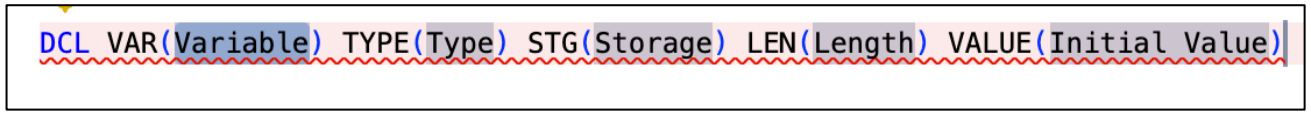
- 通常のCLコマンド補完はIBM iへの接続が必要ですが、スニペットとして用意された一部のコマンドは、IBM iに接続していなくても利用できます。

使い方：DCLコマンドの例

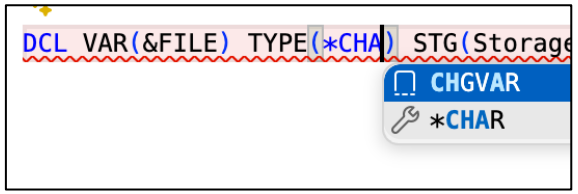
1. CLソースに d と入力
   - dで始まるコマンドの候補が表示されるので、DCLを選択してEnterを押します。



2. パラメーターのひな形を挿入
   - VARやTYPEなどのパラメーターを含むひな形が表示されます。



3. 値を入力してTabで移動
   - VARに変数名を入入力し、Tabで次のTYPEへ移動します。Control + Spaceで*CHARなどの候補も表示できます。



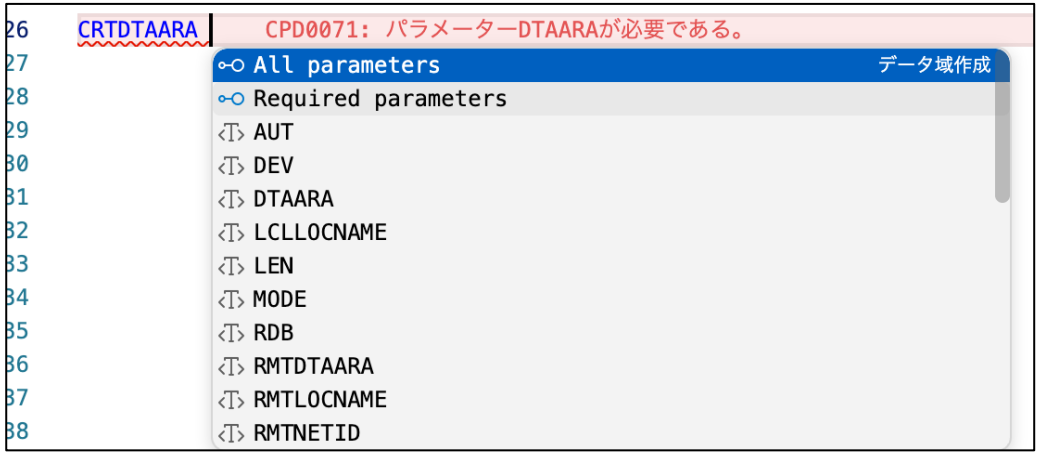
© IBM 2026

CLコマンド補完

CLコマンドのパラメーターや指定可能な値を候補一覧から選択し、入力できる機能です。

- **主な機能**
  - CLコマンドのパラメーター候補を表示
  - 必須パラメーター、または全パラメーターを含むひな形を生成
  - 特殊値や変数など、指定可能な値を候補として表示
  - Tabキーでパラメーターの入力位置を順番に移動

- **メリット**
  - 不慣れなCLコマンドの記述を支援
  - パラメーター名を調べる手間を削減
  - パラメーターの指定漏れや入力ミスを軽減

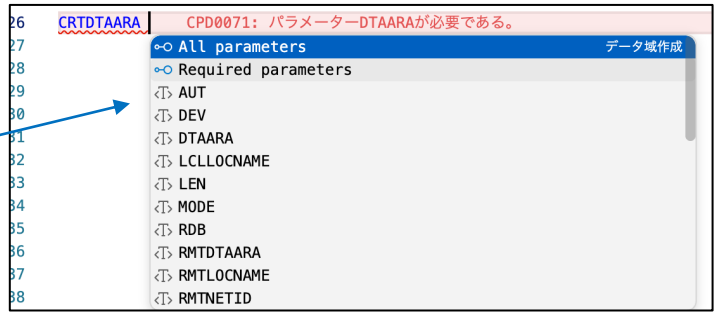


© IBM 2026

CLコマンド補完の使い方

例えば、CRTDTAARA（データ域の作成）コマンドで試してみましょう。

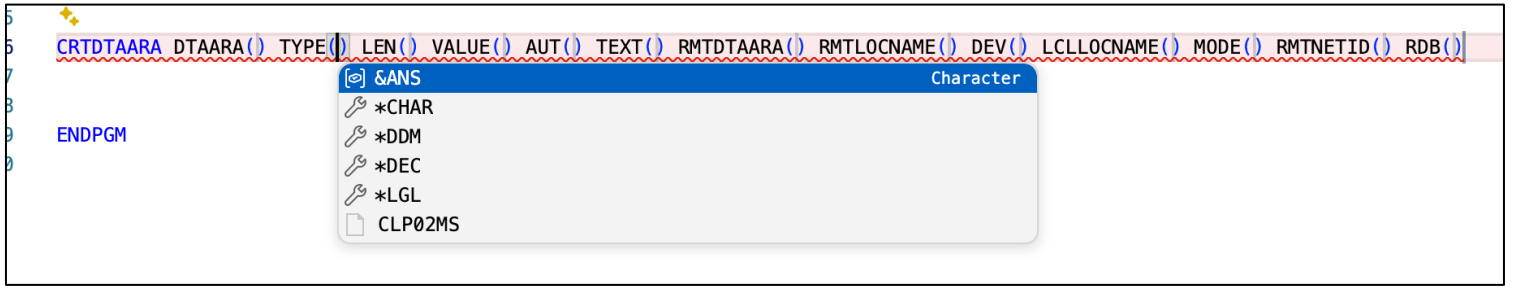
1. CLソースを開く
   - IBM iに接続し、CLLEまたはCLPのソースメンバーを開きます。
2. コマンドを入力する
   - 次のように入力し、末尾にスペースを入れます：CRTDTAARA
   - Ctrl + Spaceを押すと、パラメーターの候補が表示されます。



3. 候補を選択する
   - All parametersを選択してEnterまたはTabを押すと、パラメーターが含まれたコマンドのひな形が生成されます。
     - All parameters：利用可能なすべてのパラメーターを挿入、Required parameters：必須パラメーターだけを挿入、個別パラメーター：必要なパラメーターだけを追加

```
CRTDTAARA DTAARA() TYPE() LEN() VALUE() AUT() TEXT() RMTDTAARA() RMTLOCNAME() DEV() LCLLOCNAME() MODE() RMTNETID() RDB()
```

4. 値を入力する
   - 各パラメーターに値を入力します。値の入力位置でもCtrl + Spaceを押すと、使用可能な特殊値や変数の候補を表示できます。
     - TYPEなどのパラメーターでは、*CHARといった値の候補も表示できます。



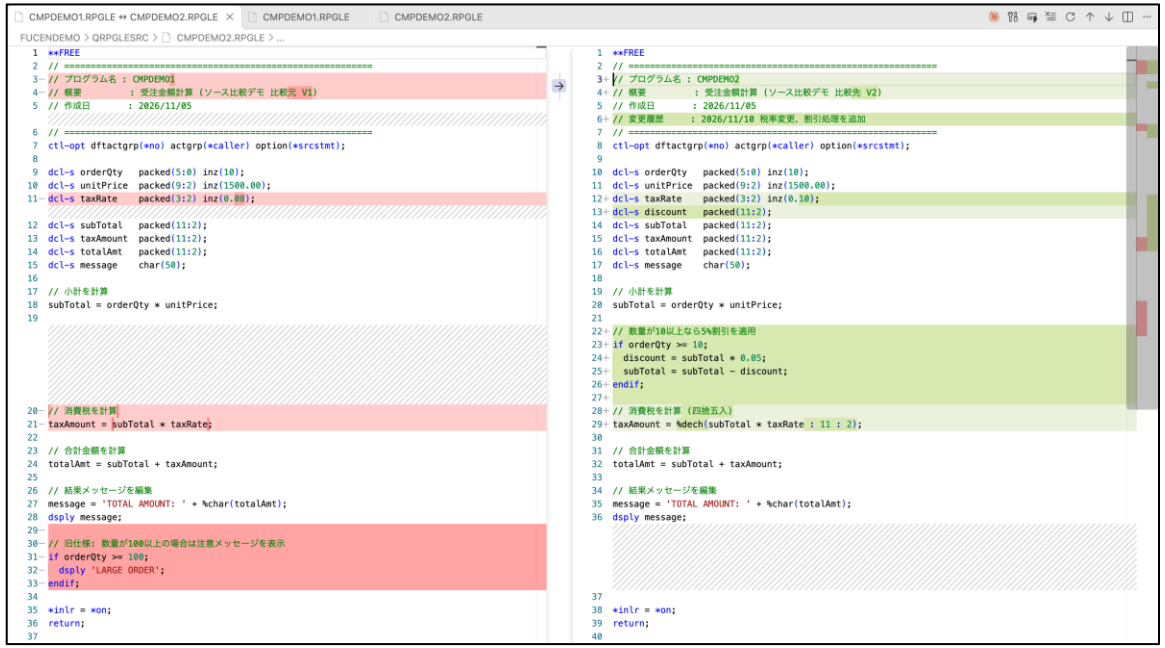
© IBM 2026

ソース比較

VS Code上で2つのソースを比較し、相違箇所を色分けして表示できる機能です。
IBM iのソースメンバーやIFSのストリームファイルに対応しており、修正前後のソースの確認などに活用できます。

- **主な機能**
  - 2つのソースメンバーやIFSファイルを比較
  - 追加・削除・変更された箇所を色分けして表示
  - 左右に並べてソースの違いを確認
  - 行単位だけでなく、行内の変更箇所も強調表示

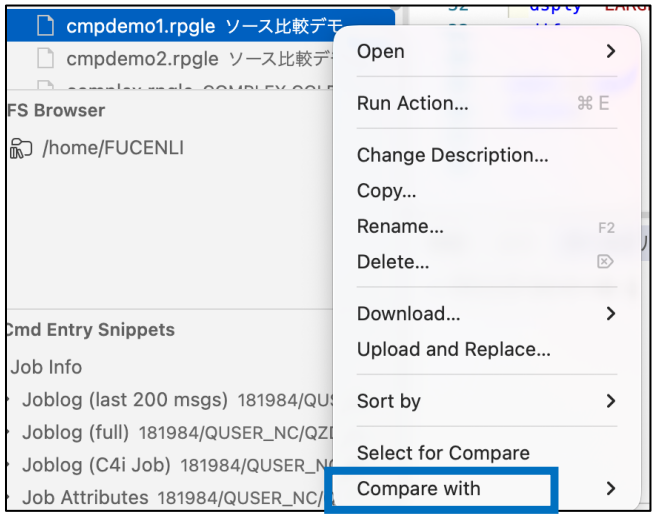
- **メリット**
  - ソースの変更箇所を一目で把握
  - 修正漏れや意図しない変更の発見を支援
  - 修正前後の比較やプログラムのレビューに活用



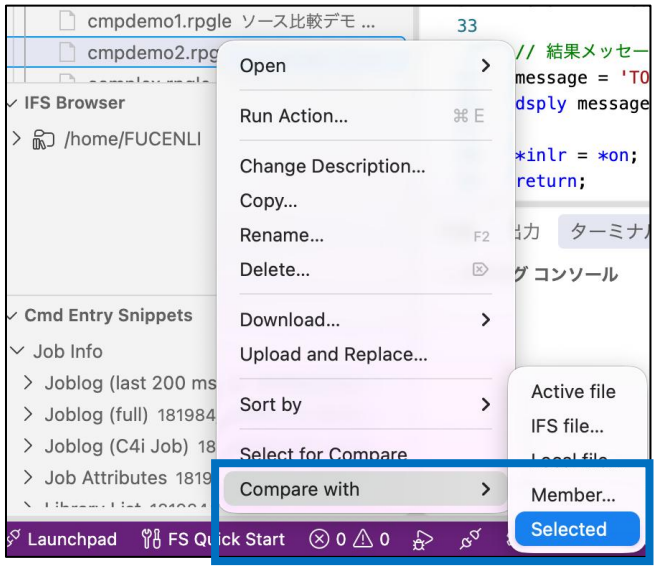
© IBM 2026

ソース比較の使い方

1. 比較元のソースを選択
   - VS CodeのObject BrowserまたはIFS Browserで、1つ目のソースを右クリックし、**Select for Compare**を選択します。



2. 比較先のソースを選択
   - 2つ目のソースを右クリックし、**Compare with Selected**を選択します。



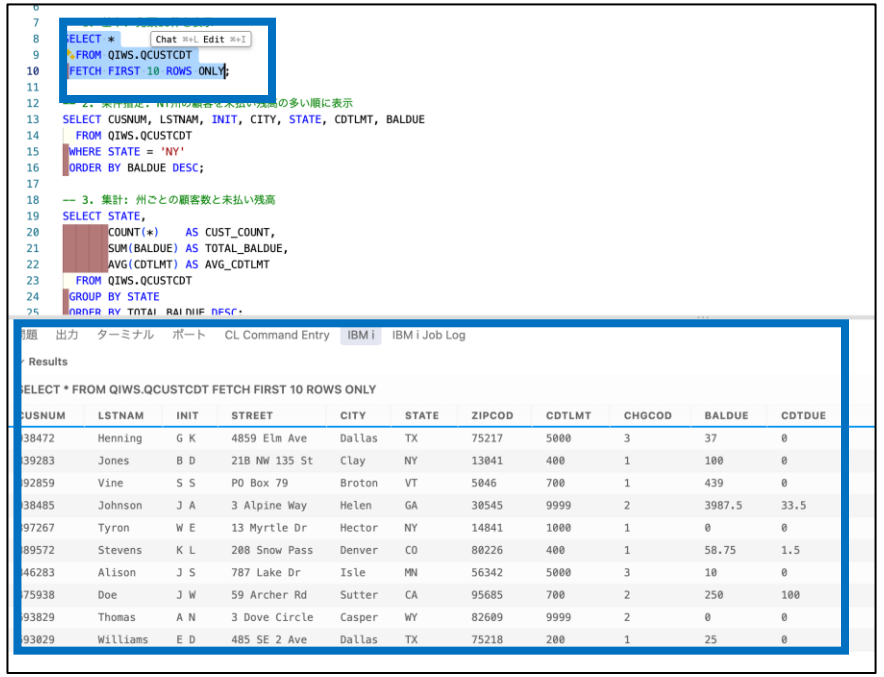
3. 比較結果を確認
   - 2つのソースが比較画面に表示され、追加・削除・変更された行が色分けされます。

© IBM 2026

VS Code でSQL文の実行

VS Codeのエディター上でSQL文を直接実行できる機能です。
SQL文を選択するか、実行したいSQL文にカーソルを置いてショートカットキーを押すだけで、IBM i上のDb2に対してSQLを実行できます。

- **主な機能**
  - 選択したSQL文、またはカーソル位置のSQL文を実行
  - ショートカットキー（ Ctrl + R ）でSQLを素早く実行
  - 実行結果を「IBM i」パネルに表示



- **メリット**
  - SQL実行のために別のツールを開く必要がない
  - 複数のSQL文から必要なものだけを実行できる
  - SQLの作成・修正・実行・結果確認をVS Code上で完結

- **使い方**
  1. 実行したいSQL文にカーソルを置くか、SQL文を選択します。
  2. Windows：Ctrl + R / Mac：⌘ + R を押します。

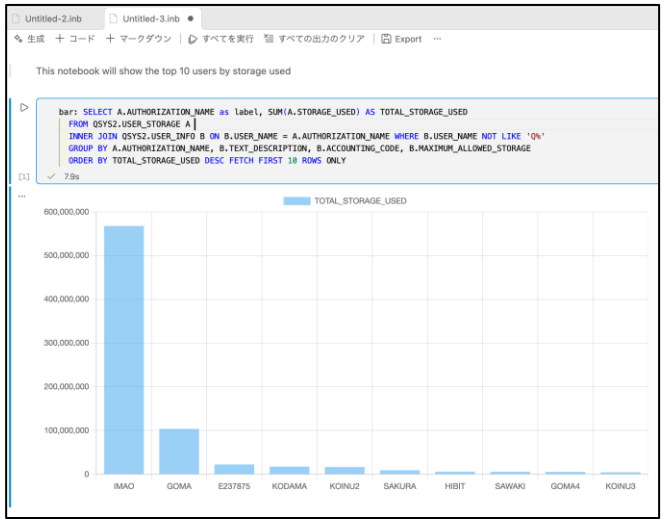
© IBM 2026

Db2 Notebook

SQL文、CLコマンド、Markdown形式の説明文を一つのNotebookにまとめて、実行・保存・共有できる機能です。
SQLの実行結果を表やグラフで可視化でき、IBM iの稼働状況確認やSQLの検証などに活用できます。
あらかじめ用意されたサンプルから試すことも、独自のNotebookを新規作成することも可能です。

- **主な機能**
  - SQL・CL・Markdownを一元管理：説明文と実行コマンドをまとめて記録
  - セル単位・一括実行：SQLやCLコマンドを個別に、またはRun Allでまとめて実行
  - 結果の可視化：SQL実行結果を表や棒グラフ、円グラフなどで表示
  - 保存・再利用（Save）：Notebookを.inb形式で保存し、編集・再実行・共有
  - レポート出力（Export）：NotebookをHTML形式で出力し、実行結果やグラフを共有

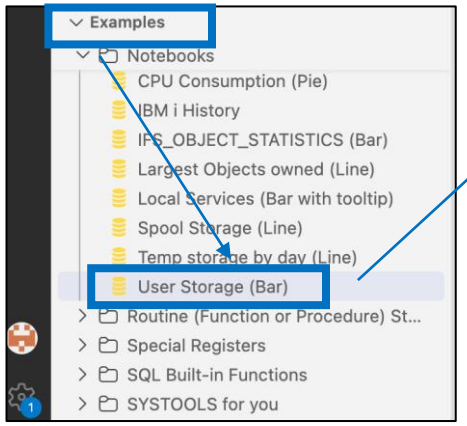
- **メリット**
  - 説明文とSQLを一緒に管理し、手順書として再利用
  - SQLの実行結果を視覚的に確認
  - 定型作業の標準化や、チーム内での手順共有に活用

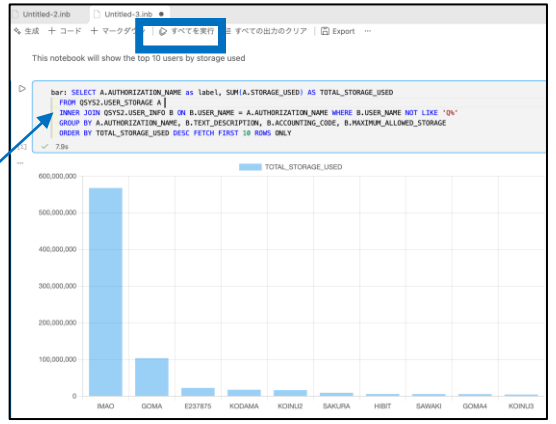


© IBM 2026

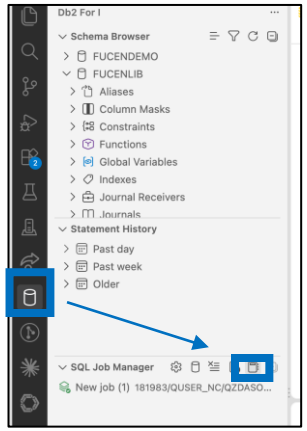
Db2 Notebookの使い方

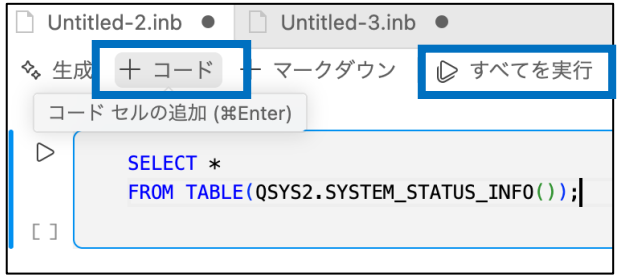
① サンプルから利用する場合
1. Db2 for IBM iの「Examples → Notebooks」を開く
2. 「User Storage」などのサンプルを選択
3. SQLを実行し、結果やグラフを確認
4. 必要に応じてMarkdown・SQL・CLセルを追加





② 新規作成する場合
1. SQL Job Managerの「New Notebook」を選択
2. Markdown・SQL・CLセルを追加
3. 各セルを実行、または一括実行





③ 保存・共有・再利用
1. Save： Ctrl + S （⌘ + S ）で.inb形式で保存
2. 再利用： .inbファイルを共有し、編集・再実行
3. Export： 「Export」から.html形式で出力し、結果やグラフを共有

© IBM 2026

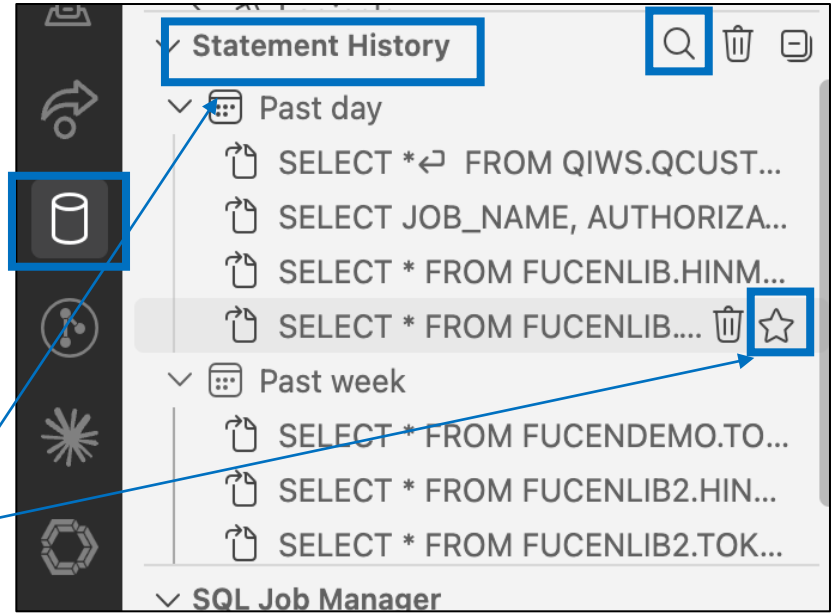
SQL実行履歴

Db2 for IBM iでは、実行したSQL文を履歴として保存し、後から確認・再利用できます。
よく使うSQLはお気に入り登録も可能です。

- **主な機能**
  - 履歴の確認：過去に実行したSQL文を一覧表示
  - SQLの再利用：履歴をクリックしてSQL文を開き、再実行
  - 履歴の検索：虫眼鏡アイコン から過去のSQLを検索
  - お気に入り登録：履歴項目を右クリックして、お気に入りに追加

- **メリット**
  - SQLを再入力する手間を削減
  - よく使うSQLに素早くアクセス
  - 過去のSQLを活用し、調査・検証作業を効率化

- **使い方**
  1. 「Statement History」 を開き、SQL実行履歴を確認
  2. 必要なSQLを選択して再利用
  3. よく使うSQLはスターを付けてお気に入り登録



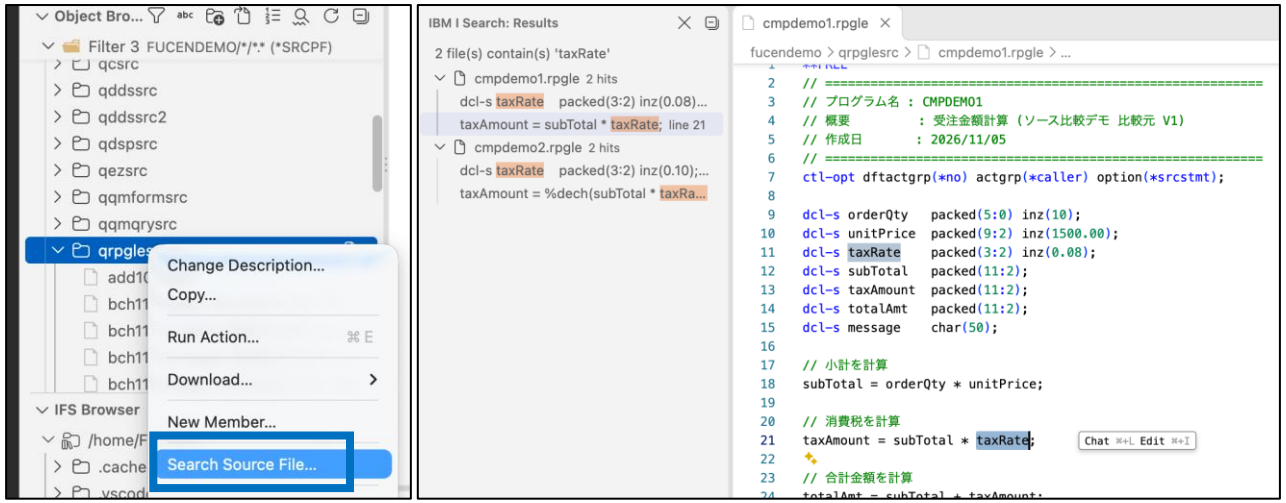
© IBM 2026

ソースファイル・IFSディレクトリー内の検索

Code for IBM iでは、ソースファイルやIFSディレクトリー内の文字列をまとめて検索できます。複数のソースメンバーやIFSファイルを一つずつ開かずに、特定のキーワードを含むファイルやソースコードを探せます。

- **主な機能**
  - ソース内検索：ソースファイル内の複数メンバーを横断検索
  - IFS内検索：指定したディレクトリー内のストリームファイルを検索
  - 検索結果の一覧表示：キーワードが含まれる箇所を確認
  - 該当箇所へ移動：検索結果から対象のソースを開いて確認

- **使い方**
  - Object Browser または IFS Browser を開く
  - 検索対象のソースファイル（例：QRPGLESRC）またはIFSディレクトリーを右クリック
  - 「Search Source File」か「 Search 」 を選択
  - 検索したい文字列を入力（例：taxRate）
  - 検索結果から該当するソースを開いて確認



© IBM 2026

4. おわりに

© IBM 2026

おわりに

- **IBM i開発をVS Codeで**
  VS CodeとIBM i Development Packを使った、モダンなIBM i開発環境
- **注目の新機能**
  CLコマンドのホバー表示やPGMオブジェクト情報の確認など、便利な機能が続々登場
- **知っておきたい便利機能**
  ソース比較、CL Prompter、Db2 Notebookなど、すぐに使える機能も充実

最新情報・便利機能はこちらから！

- 最新の機能強化情報：IBM i 7.6 TR2 Enhancements
- 各拡張機能の使い方・便利機能：Code for IBM i 公式ドキュメント

まずは気になる機能から、ぜひ試してみてください！

© IBM 2026



© IBM 2026

IBM i 関連情報 – 1）情報サイト (2026/06/24 更新)

IBM i ポータル・サイト
https://ibm.biz/ibmijapan

i Magazine (IBM i 専門誌。春夏秋冬の年4回発刊)
https://www.imagazine.co.jp/IBMi/

IBM i 情報サイト iWorld
https://ibm.biz/iworldweb

IBM i 関連セミナー・イベント
https://ibm.biz/powerevents-j

保存版「これから使う人のためのIBM i入門ガイド」（全42章）
https://www.imagazine.co.jp/imagazine-7071/

IBM i 製品とサポートのロードマップ
https://ibm.biz/ibmiroadmap2025

IBM i 7.6 技術資料 (英語版)
https://www.redbooks.ibm.com/abstracts/sg248588.html

IBM Power ソフトウェアのダウンロードサイト (ESS)
https://ibm.biz/powerdownload
Fix Central (HW・SWのFix情報提供)
https://www.ibm.com/support/fixcentral/
IBM My Notifications (IBM IDの登録 [無償] が必要)
「IBM i」「9105-41B」などPTF情報の必要な製品を選択して登録できます。
https://www.ibm.com/support/mynotifications

IBM i 各バージョンのライフサイクル
https://www.ibm.com/support/pages/release-life-cycle
IBM i 以外のSWのライフサイクル (個別検索)
https://www.ibm.com/support/pages/lifecycle/

IBM Power Virtual Server 情報
https://ibm.biz/pvsjapan

© IBM 2026

IBM i 関連情報 – 2）スキル関連サイト (2026/06/24 更新)

月イチIBM Power / SW情報セミナー「IBM てくのサロン」
https://community.ibm.com/community/user/blogs/minobu-yoshikawa/2026/03/16/techno-salon

IBM i 関連セミナー・イベント
https://ibm.biz/powerevents-j

IBM i リスキリングカレッジ
https://ibm.biz/ibmireskill2025

IBM i Club (日本のIBM i ユーザー様のコミュニティー)
https://ibm.biz/ibmiclubjapan

IBM i RiSING - IBM i 若手技術者コミュニティー
<ご参考> 2025年度まとめ
https://qiita.com/gomAnomalocaris/items/20d9179f48a55fd58bc5
<ご参考> 2024年度まとめ
https://qiita.com/gomAnomalocaris/items/3ba6d0bb2d6c61a7a581

IBM TechXchange Powerユーザーコミュニティー (日本)
https://ibm.biz/ibm-power-user-community

世界最大のIBM i ユーザーコミュニティー COMMON USA
日本のユーザー様・パートナー様もご加入いただけます
https://www.common.org/

IBM i 研修サービス (i-ラーニング社提供)
https://www.i-learning.jp/service/it/iseries.html

IBM i 研修サービス (ティアンドトラスト社提供)
https://www.tat.co.jp/cor/COR420P.php

IBM i 研修サービス (クレスコ・ジェイキューブ社提供)
https://www.cresco-jcube.co.jp/business/j-cube-academy

IBM i 研修サービス (ソリューション・ラボ・ジャパン社提供)
https://www.slj-net.co.jp/sustainable-solutions/rpg/

IBM i 研修サービス (ソルパック社提供)
https://www.solpac.co.jp/service/powersystems/TrainingService/

© IBM 2026

IBM i 関連情報 – 3) オンデマンド・セミナー (2026/06/24 更新)

IBM i Essentials 2026 Spring オンデマンド・セミナー
https://video.ibm.com/recorded/134795115

IBM i 新時代を切り開く IBM Bob お披露目Webセミナー
https://video.ibm.com/recorded/134761370

IBM i Advantage 2025 オンデマンド・セミナー
https://ibm.biz/ibmiadvantage2025

IBM i World 2025 オンデマンド・セミナー
https://ibm.biz/ibmiworld2025

IBM i Advantage 2024 オンデマンド・セミナー
https://ibm.biz/ibmiadvantage2024video

IBM i World 2024 オンデマンド・セミナー
https://video.ibm.com/recorded/133917616

IBM i World 2023 オンデマンド・セミナー
https://ibm.biz/ibmiworld2023

IBM i World 2022 オンデマンド・セミナー
https://video.ibm.com/recorded/132423205

© IBM 2026

ワークショップ、セッション、および資料は、IBMによって準備され、IBM独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる読者に対しても法律的またはその他の指導や助言を意図したものではなく、またそのような結果を生むものでもありません。本資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努力しましたが、「現状のまま」提供され、明示または暗示にかかわらずいかなる保証も伴わないものとします。本資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。 本資料に含まれている内容は、IBMまたはそのサプライヤーやライセンス交付者からいかなる保証または表明を引きだすことを意図したものでも、IBMソフトウェアの使用を規定する適用ライセンス契約の条項を変更することを意図したものでもなく、またそのような結果を生むものでもありません。
本資料でIBM製品、プログラム、またはサービスに言及していても、IBMが営業活動を行っているすべての国でそれらが使用可能であることを暗示するものではありません。本資料で言及している製品リリース日付や製品機能は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、いかなる方法においても将来の製品または機能が使用可能になると確約することを意図したものではありません。本資料に含まれている内容は、読者が開始する活動によって特定の販売、売上高の向上、またはその他の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したものでも、またそのような結果を生むものでもありません。 パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。
記述されているすべてのお客様事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。
IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Db2、Rational、Power、POWER8、 POWER9、AIXは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。
他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。
現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

インテル, Intel, Intelロゴ, Intel Inside, Intel Insideロゴ, Centrino, Intel Centrinoロゴ, Celeron, Xeon, Intel SpeedStep, Itanium, およびPentium は Intel Corporationまたは子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。
Microsoft, Windows, Windows NT および Windowsロゴは Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。
ITILはAXELOS Limitedの登録商標です。
UNIXはThe Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。
JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

© IBM 2026

お申込みをお待ちしています。

2026年 11月30日(月)-12月1日(火)

IBM i Advantage 2026

IBM本社（虎ノ門）で開催します。

https://ibm.biz/iia2026

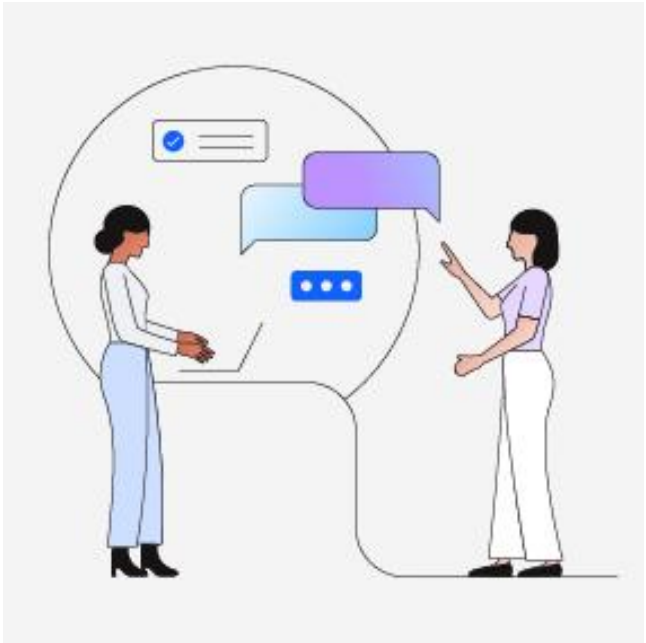
© 2026 IBM Corporation

IBM i 若手技術者コミュニティー
IBM i RiSING　参加者募集中！

「技術力向上と情報交換を目的とした若手エンジニアのためのコミュニティー」

4月~10月の半年間で活動

- 年3回IBM主催の全体会議(キックオフ/中間発表/最終発表)
  ＋ 各チームにおける分科会に参加
- RPGモダナイゼーション・Git/VS code活用・生成AI連携・
  Node js・パフォーマンス可視化・IBM i 学習支援　等



IBM i の業務経験が10年以内の技術者の方

2024/2025年同活動参加メンバーの継続参加も大歓迎！



参加登録

https://ibm.biz/Rising2026Reg

※　本活動は研修ではなくコミュニティー活動です。IBM i の基本操作を理解されている方、または今後積極的に学ぶ意欲のある方を前提として参加をお願いしています。

© 202